

社会の先を歩く。患者さんと共に歩く。



公益財団法人
京都大学iPS細胞研究財団

最適なiPS細胞技術を、良心的な価格で届ける。

京都大学iPS細胞研究財団は、iPS細胞の製造や品質評価などの技術を産業界へと「橋渡し」する機能を担うため、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)から一部の機能を分離する形で設立され、2020年4月1日に活動を開始いたしました。

2007年に私がヒトiPS細胞の作製に成功してからこれまで、多くの研究者の努力や患者さんのご協力により、iPS細胞を使った技術で新しい治療法の開発が進んでいます。いくつかのプロジェクトでは患者さんにご協力いただき、安全性と有効性の評価を行うまでに至っています。

当財団は、CiRAが担ってきたiPS細胞の製造や品質評価などの技術を産業界へ橋渡しする機能を受け継ぎ、CiRAをはじめ、iPS細胞ストックに関わる様々な研究機関や企業の皆様と研究開発に関する情報を集約・共有させていただくことによって、臨床応用の推進に貢献してまいります。

橋渡し機能の中心である細胞調製施設(FiT)では、

品質を担保したiPS細胞を製造・備蓄し、全国の研究者や企業に公平かつ適正な価格で提供いたします。このiPS細胞ストックプロジェクトは国の支援により行われ、日本赤十字社、日本骨髄バンクおよび、さい帯血バンクから多大なるご協力をいただき、2023年4月現在で7名の方から作製した27株のiPS細胞を提供しております。これまでに加齢黄斑変性に対する臨床研究、パーキンソン病に対する治験、角膜上皮幹細胞疲弊症に対する臨床研究、そして虚血性心筋症に対する治験などにおいて、このiPS細胞ストックが使われました。今後も患者さんにとって最適なiPS細胞を使っていただけるように、研究機関や企業の皆様とよく相談しながら、様々なiPS細胞を提供してまいります。

当財団では、最適なiPS細胞技術を良心的な価格で届けることを目指します。当財団の設立趣旨および事業内容について、ご理解ご支援賜りますようお願いいたします。

理事長
山中 伸弥



4つの指針

使命 MISSION

社会の先を歩く。
患者さんと共に歩く。

CiRA Foundationは、常に技術を磨き、社会の先を歩き、医療の継続的な発展に寄与し続ける組織。しかし、忘れてはいけないのが、私たちにとって最も大切な、患者さんという存在。

進化だけに捉われるのではなく、進歩だけに目を向けるのではなく、常に患者さんを見続け、寄り添うことを忘れずに、共に歩みながら、医療の発展に貢献することこそが、私たちの使命だと考えています。



理念 PHILOSOPHY

最適なiPS細胞技術を、
良心的な価格で届ける。

一日も早く患者さんにiPS細胞による医療を届けるために、細胞の製造や品質評価などの技術を産業界へ「橋渡し」します。

日進月歩で進化する技術に対応し、日々の研鑽に努め、継続的な技術改善に取り組みます。

研究開発に関する様々な情報を集約・共有することにより、臨床応用の推進、品質・安全性の向上、コストダウンに貢献します。

高い規範意識をもって公益事業を推進します。



価値観 VALUES

人のため、
を原動力に。

私たちは、なぜ頑張るのか。なぜ諦めないのか。そこには、大切にすべき"人"がいるからです。それは、患者さんであることはもちろん、家族であったり、一緒に頑張る仲間であったり同じ思いを持ったビジネスパートナーであったり。

自分のためなら、途中で投げ出してしまうことも、人のためなら、頑張れる。人のためだからこそ、諦められない。CiRA Foundationは「人のため」を原動力とし、iPS細胞の製造や品質評価などの高い技術を産業界へ安定的に「橋渡し」いたします。



行動指針 CODE of CONDUCT

高め合う、認め合う、
分かち合う。

CiRA Foundationで働く私たち、関わる方々の想いは同じ。最適なiPS細胞技術を、良心的な価格で届けること。同じ思い、同じ目的を持つからこそ、お互いに技術を高め合い、お互いの役割を認め合い、お互いの成果を分かち合う大切さを知っています。

患者さんの願いに、いち早く応えるため、社会の課題を、ひとつずつ解決するため、みんなの気持ちをひとつにして、これからも、挑戦を続けます。



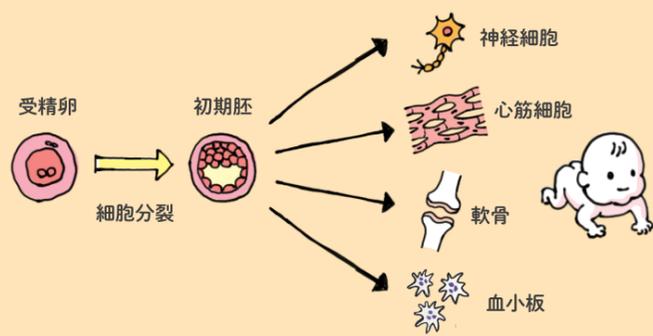
iPS細胞

induced pluripotent stem cell

人間の身体の細胞

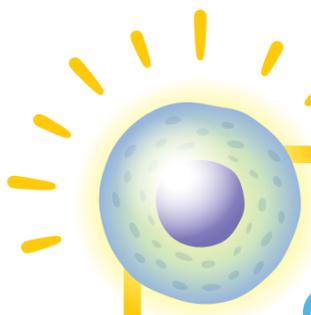
受精卵は、たった1つの細胞が身体のさまざまな機能を持った細胞に分化する可能性を持っています。

受精卵は細胞分裂を繰り返す過程で、皮膚に変化する細胞、骨に変化する細胞、神経に変化する細胞などに分化していきます。この分化の流れは一方通行であり、長年、簡単にさかのぼる方法はないと考えられてきました。



iPS細胞の誕生

2007年に山中伸弥教授は、大人の女性の皮膚の細胞から、まるで細胞の時間を巻き戻すかのように、あらゆる細胞に変化することのできるiPS細胞を作することに成功しました。



iPS細胞の誕生で可能性が広がった!!

iPS細胞の利点

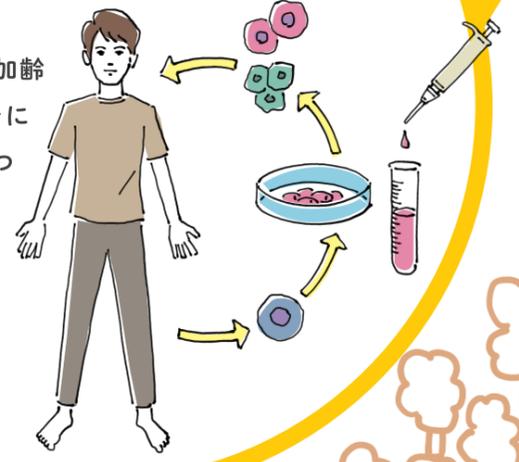
マウス等ではなく、ヒトの細胞を使って研究ができます。また、それまでには入手できなかった細胞や組織を用いて実験ができます。



再生医療の応用への期待

病気やけがによって損傷を負った身体の組織を再生しようとする医療(再生医療)への応用が期待されています。

パーキンソン病や加齢黄斑変性など、すでにいくつかの病気について、臨床研究や治験が実施されています。



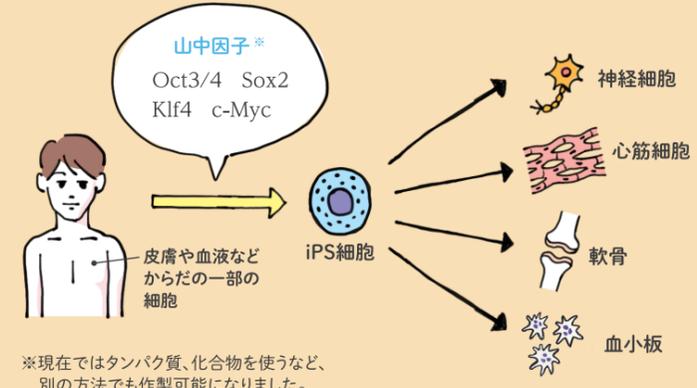
創薬での利用

創薬の過程で不可欠な臨床試験についても、iPS細胞から分化させた組織や臓器の細胞で新薬の検査を行い、臨床試験の一部を代用することができれば、新薬開発の加速が期待できます。

iPS細胞の特徴

条件を整えれば、シャーレのなかで、iPS細胞のまま増殖します。

また、特定の刺激を加えることで、さまざまな種類の細胞に変化することもできます。これを「分化」と言います。



※現在ではタンパク質、化合物を使うなど、別の方法でも作製可能になりました。

オーダーメイド医療

さらに、その人自身の細胞からiPS細胞を作り、そこから分化させた組織細胞を移植に使ったり、新薬が効くか確かめることができれば、拒絶反応や副作用の少ない「オーダーメイド医療」への道筋も開ける可能性があります。



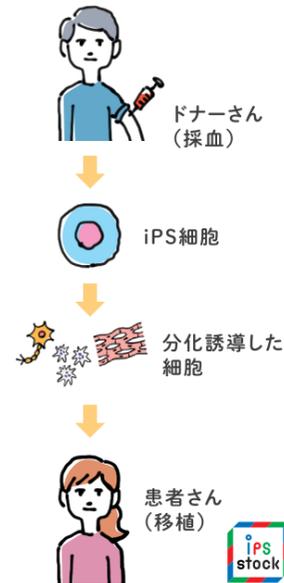
主な事業内容

臨床用iPS細胞 3つの柱

当財団で現在取り組んでいる事業の
3つの柱をご紹介します。
この3つの柱を並行して進めていきます。

iPS細胞ストック
(日本人40%をカバー)

iPS細胞ストック (HLAホモドナー)



詳しくは9~13ページをご参照ください。

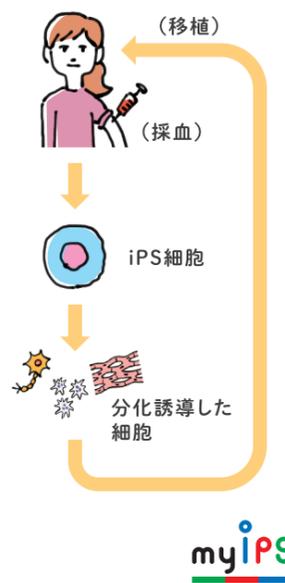
HLAゲノム編集
iPS細胞ストック
(世界の大半をカバー)

iPS細胞ストック (ゲノム編集)



my iPS プロジェクト
(完全オーダーメイド型)

my iPS プロジェクト



詳しくは14ページをご参照ください。

新型コロナウイルス感染症研究への貢献

当財団では、新型コロナウイルス感染症の発症メカニズムや重症度が異なる原因などをいち早く解明することにつなげるため、以下の取り組みを行っています。

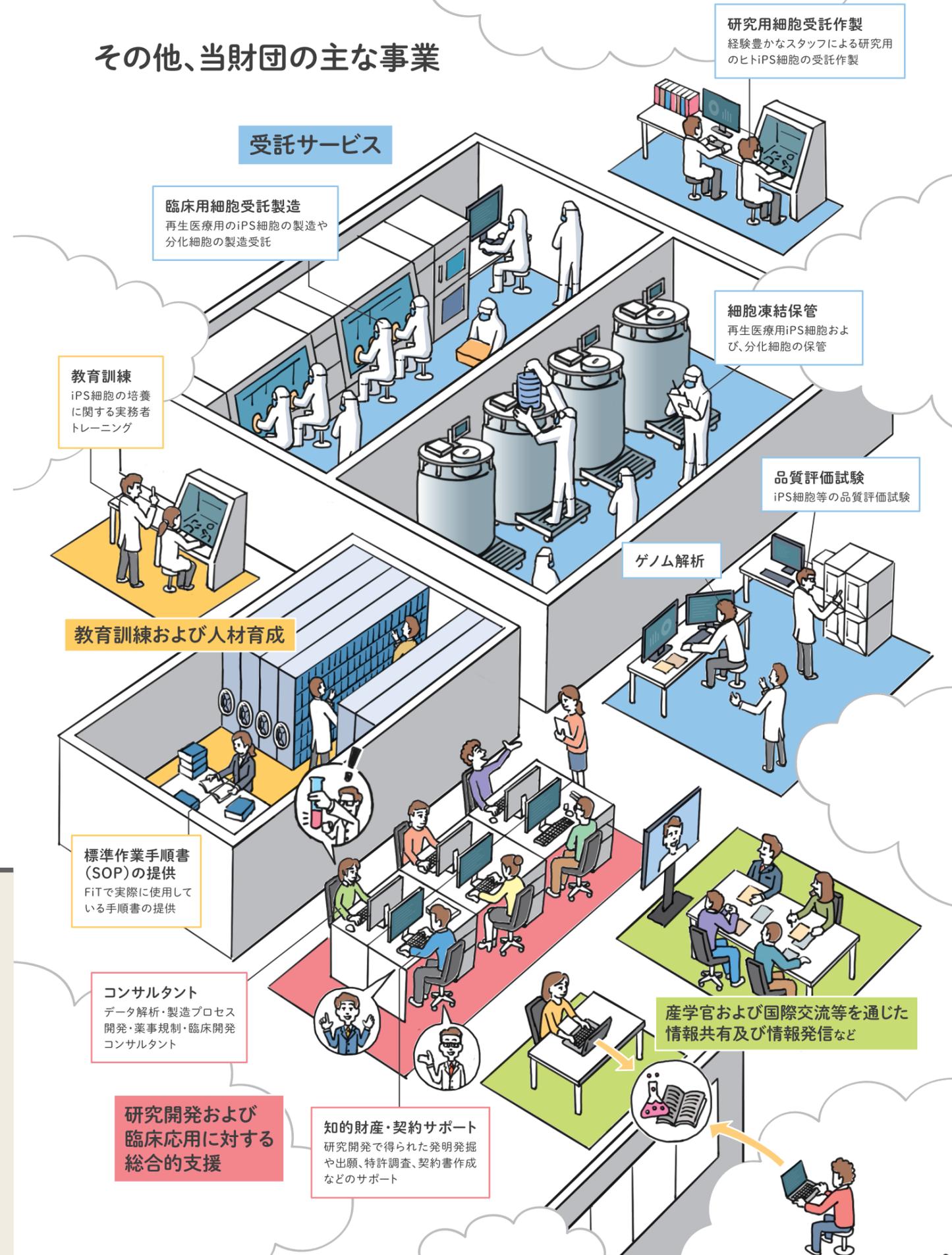
●新型コロナウイルス感染症回復者由来iPS細胞の提供

2021年3月から、新型コロナウイルスに感染した後に回復した方々の末梢血からそれぞれiPS細胞を樹立し、7月から国内外(営利企業含む)の研究機関へ無償提供しております。これは、当財団と京都大学iPS細胞研究所、りんくう総合医療センターおよび京都大学医学部附属病院の4機関の協力による新型コロナウイルス感染症に関する研究促進に向けた取り組みです。これにより、新型コロナウイルス感染症における適切な診断方法や予防・治療法の確立に貢献することを目指しています。

●各種解析の受託

京都大学医学研究科、京都大学医学部附属病院、国立感染症研究所などからの受託により、新型コロナウイルスのゲノム解析などを行っています。これにより、ウイルス感染のメカニズム解析や、ウイルス変異株の迅速なモニタリング・流行抑制に向けた施策検討に貢献し、その知見をiPS細胞の研究開発、品質評価に活用します。

その他、当財団の主な事業





iPS細胞ストックプロジェクト

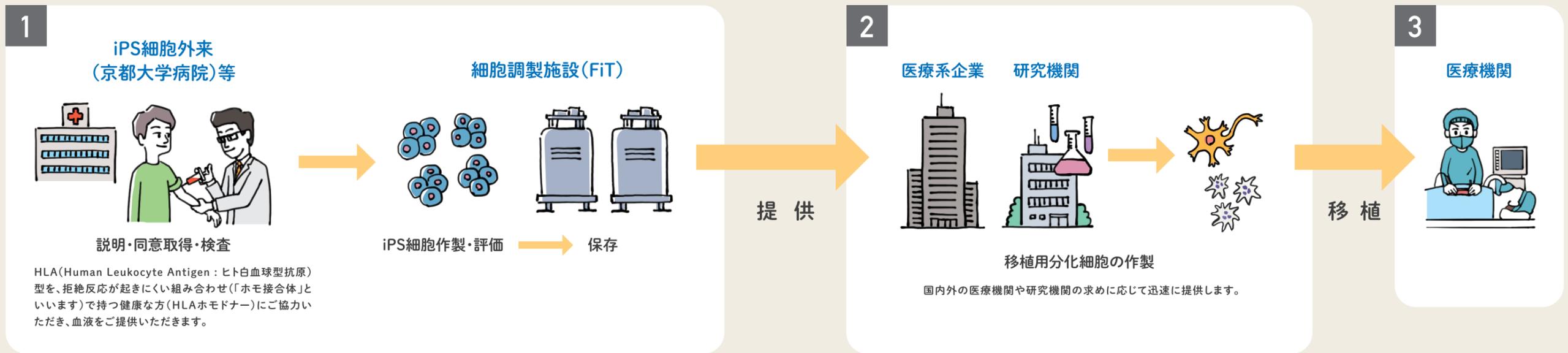
iPS細胞ストックプロジェクトは、2013年度よりiPS細胞研究所（CiRA）で国の再生医療実現拠点ネットワークプログラムの一環として進められ、2020年4月に公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団が引き継ぎました。2023年3月末、国によるプログラム終了後も、本プロジェクトは引き続き当財団により運営しております。

HLAホモ
iPS細胞ストック

HLAゲノム編集
iPS細胞ストック

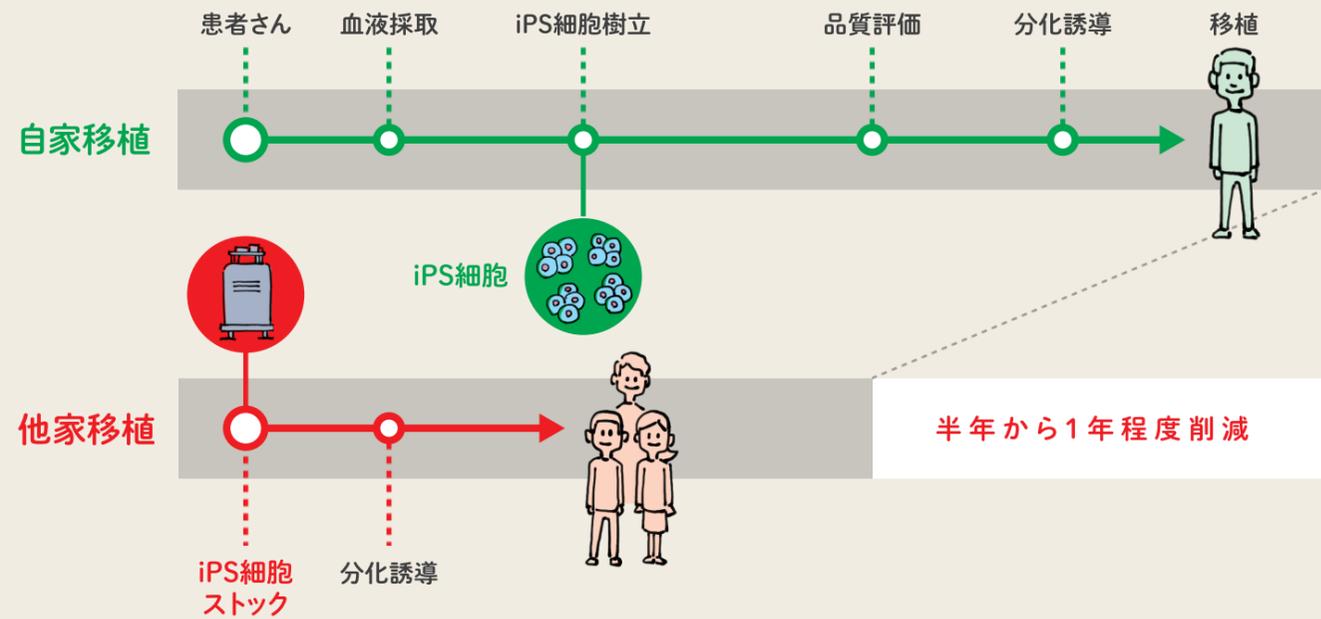
本プロジェクトでは、細胞調製施設（FiT）でiPS細胞を作製し、様々な品質評価を行った上で、再生医療に利用できるiPS細胞を選定、凍結保存し、必要に応じて大学や企業などの研究機関へ提供します。

iPS細胞が患者さんに届くまで



このプロジェクトは、以下の機関のご賛同とご協力により、ボランティア候補者へのご連絡や、採血などの実施場所を提供していただいています。

- これまでにボランティア候補者をご紹介いただいた機関
日本赤十字社
日本骨髄バンク
さい帯血バンク
- これまでに提供いただいたiPS細胞用の採血の実施場所
京都大学医学部附属病院(京都府)
医療法人財団医親会 海上ビル診療所(東京都)
名古屋第一赤十字病院(愛知県)



患者さん自身の細胞を移植する場合(これを「自家移植」といいます)、まずは患者さんの血液などの細胞からiPS細胞を作り品質を確認します。次に、そのiPS細胞からその時の患者さんの治療に必要な細胞へと変化(分化)させたのち、移植します。

一方、このプロジェクトで使用するiPS細胞ストックは、移植される患者さんにとっては他人の細胞(「他家移植」と呼びます)ですが、すでに品質は確認済みのものなので、自家移植と比べると、時間とコストを削減できるなどのメリットがあります。

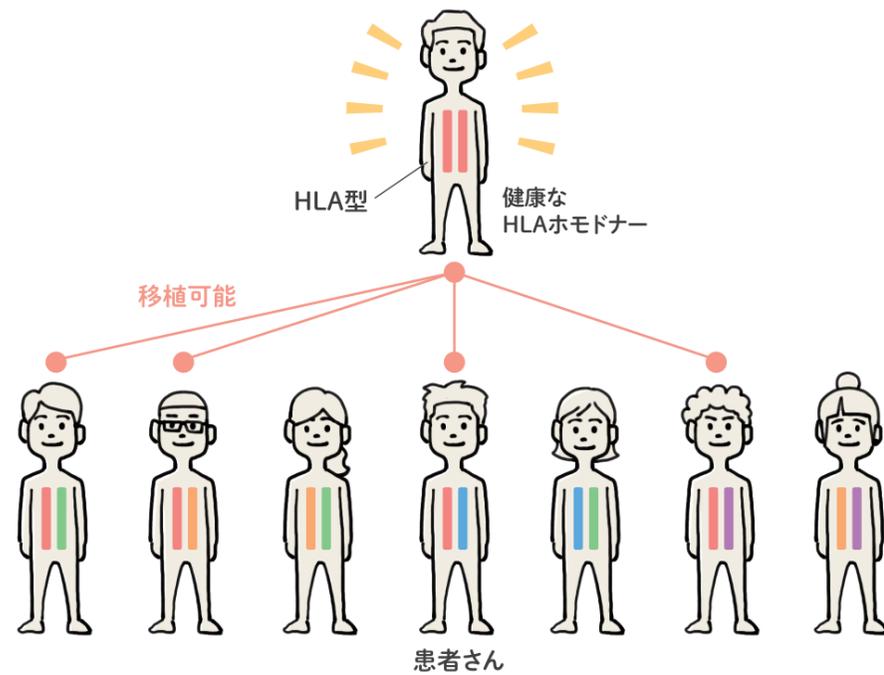
HLAホモドナー由来iPS細胞ストック

HLAホモドナー由来 iPS細胞とは

HLA-A、HLA-B、HLA-DRをいずれもホモ接合体にもつ、健康なボランティアの方にご協力頂き、ご提供いただいた末梢血あるいは臍帯血に含まれる細胞から作製したiPS細胞です。

利点

日本国内で頻度の高いHLA型の方から順にiPS細胞を作製しています。これまでにHLA型で4種類、7名の方にご協力いただき、27株のiPS細胞を提供しており、全体で日本人の約40%をカバーできると考えられます。様々なiPS細胞の中から、HLA型や分化能、性別など、疾患や患者さんに合わせてよりよい細胞を選択することができます。すでに臨床研究や治験にて使用された実績のある細胞株もあります。



課題

現状では日本人の約40%をカバーしていますが、HLA型が合わない場合は上記の利点を活かすことができません。

用語解説

HLA：ヒト白血球型抗原 (Human Leukocyte Antigen; HLA)。ヒトの細胞で自己かそうではないかを見分ける目印のようなタンパク質の総称です。白血球以外にも様々な細胞

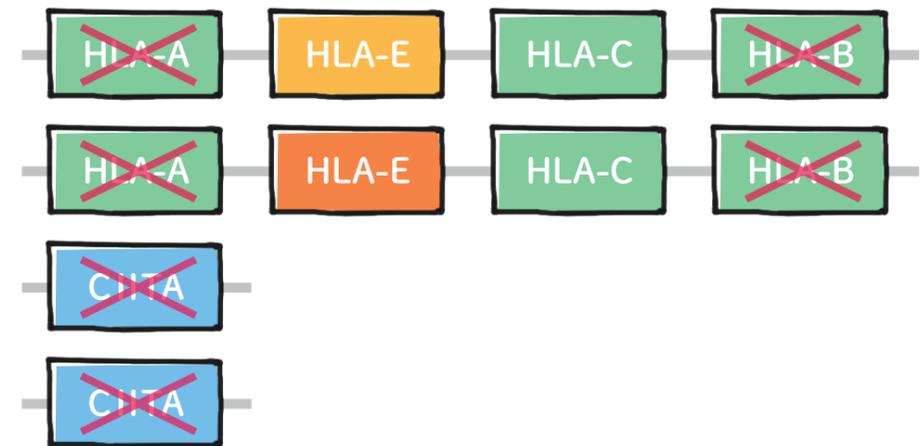
HLAゲノム編集iPS細胞ストック

HLAゲノム編集 iPS細胞とは

ゲノム編集技術を用いて拒絶反応のリスクを小さくしたiPS細胞です。当財団ではHLAホモドナーの方から作製したiPS細胞ストックにゲノム編集を行い、HLA-A/B/CIITAをなくしたiPS細胞を作製し、提供しています。

利点

非常に少ない株数で多くの人に対応可能と考えられます。また、HLAをすべて働かなくした細胞と比べるとHLA-CおよびHLA-E等を残してあるので、移植の際、キラーT細胞やヘルパーT細胞だけでなく、NK細胞を介した拒絶反応のリスクを小さくすることが期待できます。



CRISPR-Cas9ゲノム編集技術を用いて、HLA-A遺伝子、HLA-B遺伝子及び、HLA-ClassIIの発現に重要なCIITA遺伝子をなくしたiPS細胞株です。

課題

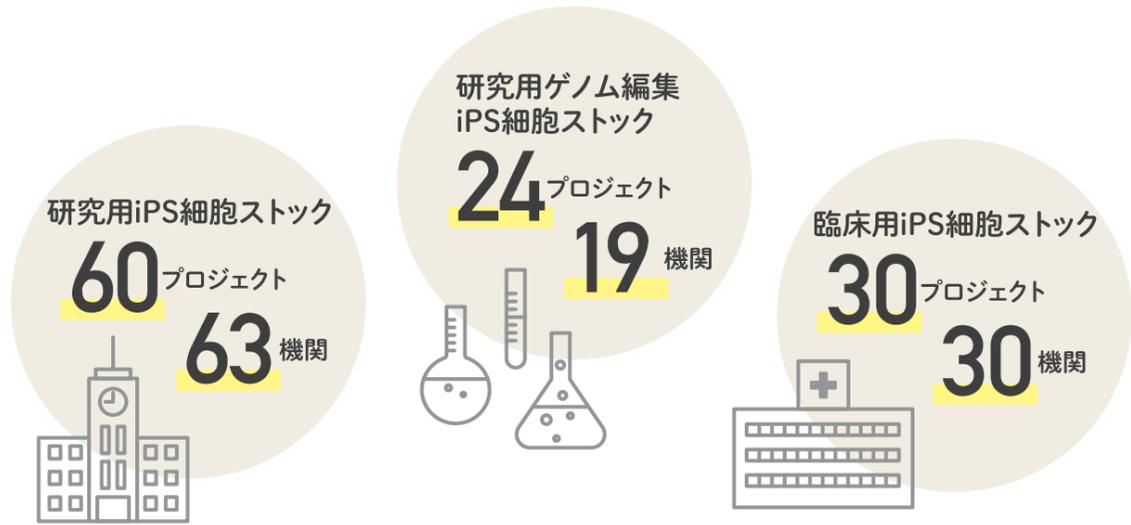
全ての拒絶反応を回避できない可能性があります。ゲノム編集技術を用いた臨床応用例は国内で先例がなく、細胞の安全性や品質について確認する必要があります。

で存在しており、組み合わせは数万通りにもなります。大きくクラスI~IIIに分けられ、特にクラスIIにあるHLA-A、HLA-B、HLA-Cは細胞を移植したときの拒絶反応に大きく影響します。



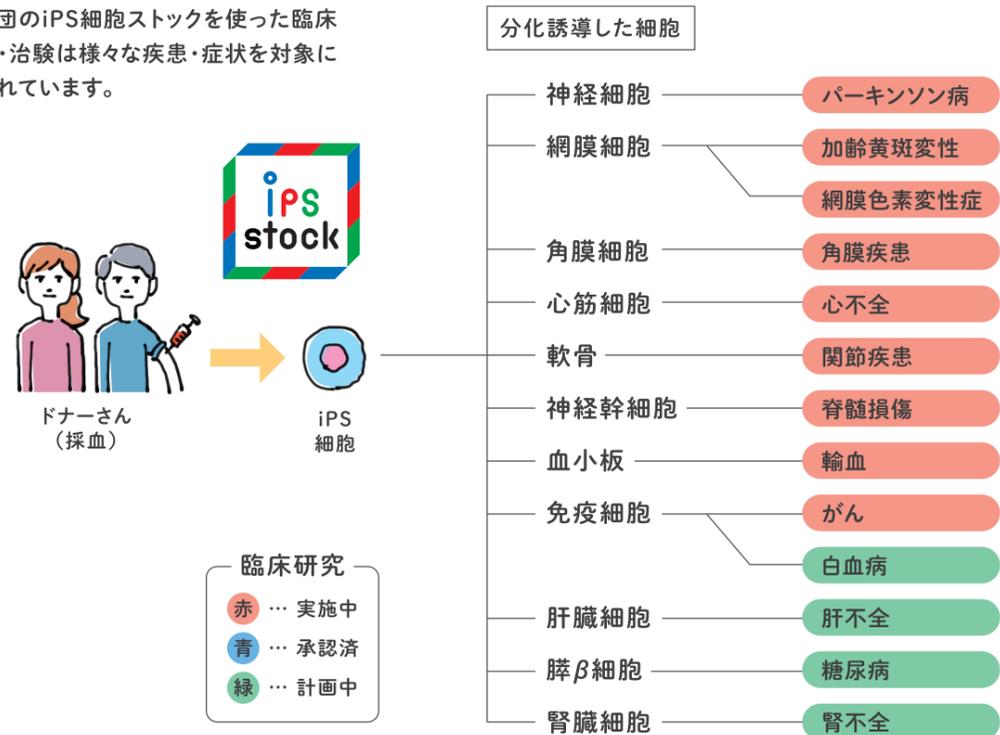
iPS細胞ストック提供実績 (2023年6月末現在)

※京都大学iPS細胞研究所(CiRA)として施設運営を行っていた時期も含む



iPS細胞ストック提供先等の医療機関が実施している臨床研究・治験

当財団のiPS細胞ストックを使った臨床研究・治験は様々な疾患・症状を対象に行われています。



my iPSプロジェクト (完全オーダーメイド型)

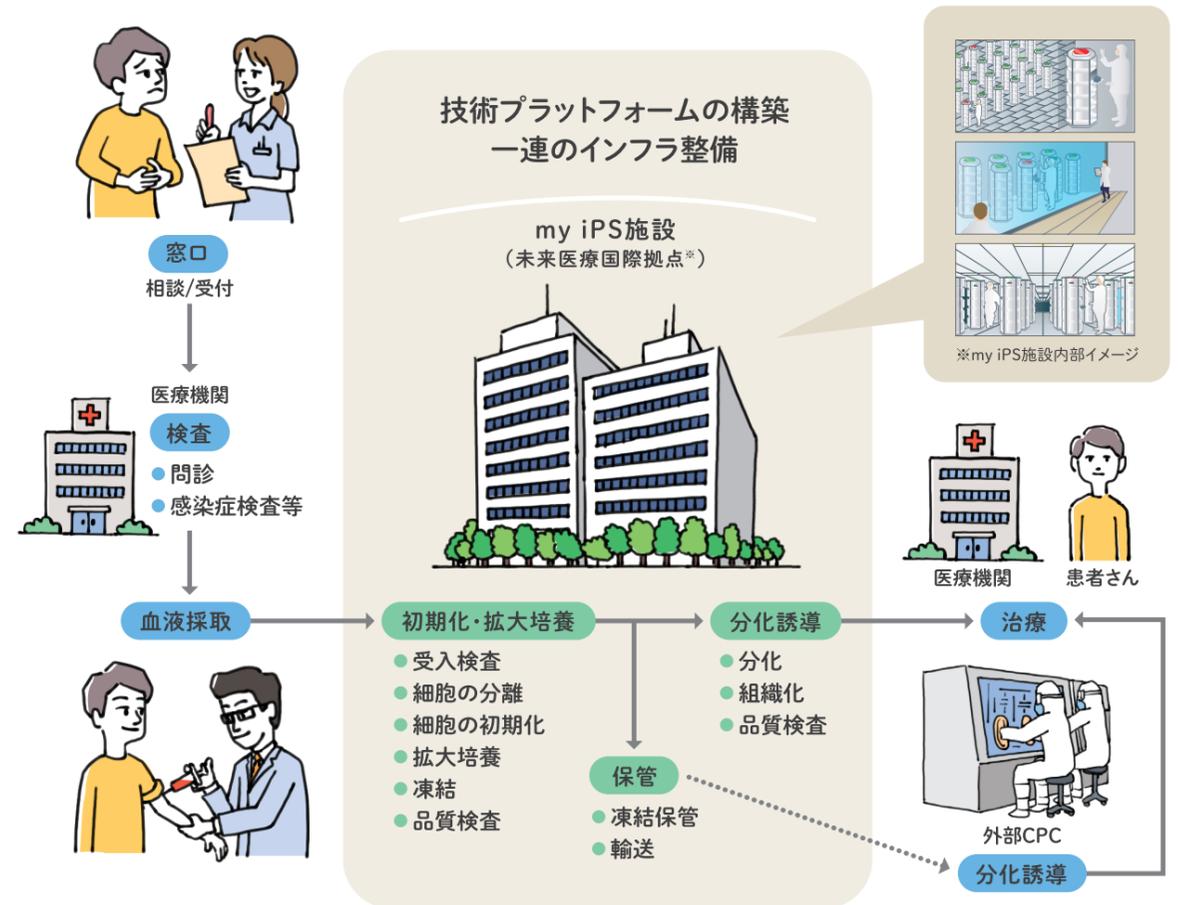
my iPSプロジェクト

自分の細胞から作ったiPS細胞は、移植の際、拒絶反応などのリスクを最小限にすることができます。一方で、患者さんごとのオーダーメイドとなるため、治療費が高額になるおそれがあります。当財団のmy iPSプロジェクトでは、必要とする患者さん由来のiPS細胞を提供することができるよう、

iPS細胞の効率的な製造を目指しています。

my iPSプロジェクト用の製造施設は、大阪中之島の「未来医療国際拠点」に置くことが既に決まっています。2025年からの細胞提供を目指し、今後、研究開発をいっそう加速させます。

my iPSプロジェクト 実用化モデル



※未来医療国際拠点
医療機関と企業、スタートアップ、支援機関等が一つ屋根の下に集積することを特徴とする国内でも類を見ない拠点。
民間企業等と大阪府によって設立された一般財団法人 未来医療推進機構が拠点の運営を担う。

細胞調製施設 (FiT)

Facility for iPS Cell Therapy



細胞調製施設 (FiT) はiPS細胞の製造・保管を行う施設です。

FiTは、再生医療等安全性確保法に基づく細胞培養加工施設として許可を取得しています。

患者さんに移植する細胞は、医薬品と同等の安全性と品質を保證する必要があります。FiTは国で定められた製造管理・品質管理の基準 (GMP及びGCTP) に準拠した適切な管理のもとで非常にクリーンな環境が維持されており、訓練された作業員の手によって再生医療用iPS細胞が製造されています。

環境

施設で作られる細胞は患者さんに投与されるため、部屋自体がクリーンな環境であることはもとより、周りの汚れを通さないアイソレーターという特殊な装置の中で細胞を作ります。



アイソレーター

入室

製造施設は厳重に管理されており、訓練を受けた作業員のみが入室することができます。入室時には、その日の体調などを確認して行き先を記録します。

製造

アイソレーターを用いた細胞の培養は、3名1組で行います。2名が作業し、残りの1名は定められた手順に従って作業が正しく進められるように、的確な指示を出して実施内容を記録します。当たり前のことを当たり前に確実に進めることが、最も大切です。

服装

クリーンな環境を維持するため、全身を覆う無塵衣 (むじんい) を着て作業を行います。施設の外から持ち込まれた異物や人から発生する汚れが拡散混入することを防ぎます。

培養

アイソレーターの隣にはインキュベーターという装置が設置され、細胞をきれいな状態で保ったまま、適切な温度管理のもと、栄養分が含まれた培地の中で分裂を繰り返して増やすことができます。

保管

製造した細胞はたくさんの凍結保存用チューブに分注して凍結保存用ボックスに格納されます。凍結保存用ボックスは液体窒素が入ったタンクに保管され、細胞が劣化しないよう超低温で凍結保存されています。

試験

製造部で作られた細胞は、安全性や有効性を確認する品質試験を行っています。iPS細胞を作るときに使われるベクターと呼ばれる「運び屋」(DNAまたはRNA分子) が残っていないか、ゲノム変異が起こっていないか、微生物の混入はないか、未分化状態が維持できているかなどを確認します。医療用として患者さんに使われるものなので、万が一ということがあってはならず、担当者は緊張感をもって取り組んでいます。

出荷

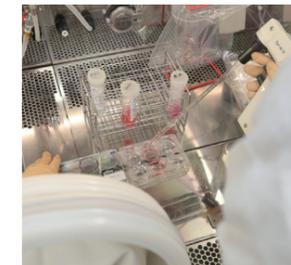
様々な種類の細胞を大量に保管しており、依頼のあった細胞を正確に選び出します。選択した細胞は保管されたタンクから取り出して、劣化ないように手際よく液体窒素が充填された搬送容器 (ドライシッパー) に格納して発送します。非営利機関には無償、営利機関にも低価格で、研究機関、医療機関、企業などに細胞を提供しています。



管理室



次世代シーケンサー



培地交換



検査室



細胞保存タンク



凍結保存用チューブ



凍結保存用ボックス

iPS細胞を使った治療を「当たり前の医療」にすることを目指して

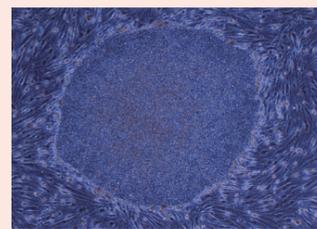
iPS細胞ストックに関する主な動き



FiTが「iPS細胞ストック」提供開始



日本赤十字社の2カ所(大阪市、京都市)の献血会場で、「血小板成分献血」にご協力いただいた方に、研究参加のお願いを開始※(写真はイメージ。採血前の事前説明の様子を再現したもの。)
※2019年終了。終了時、4カ所(大阪市2カ所、京都市、神戸市)



ヒト由来iPS細胞の作製に成功
©京都大学教授 山中伸弥

マウス由来iPS細胞誕生

2006 2007 2008 2010

組織の動き

京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)にiPS細胞研究センターが設置される



©京都大学iPS細胞研究所

同センターを京都大学iPS細胞研究所(CiRA)に改組
細胞調製施設(FiT)完成

再生医療実現拠点ネットワークプログラム「iPS細胞研究中核拠点」に採択

再生医療等安全性確保法に基づく細胞培養加工施設として日本初の許可を取得

2013

2014

2015

さい帯血バンクの臍帯血提供者に研究参加のお願いを開始

2017

2018

臍帯血由来のiPS細胞ストックの提供開始

加齢黄斑変性の患者さん
網膜色素上皮細胞懸濁液

2019

2020

角膜上皮幹細胞疲弊症の患者さん
角膜上皮細胞シート

心不全の患者さん
心筋細胞シート

パーキンソン病の患者さん
ドパミン神経前駆細胞

網膜色素変性症の患者さん
網膜シート

血小板減少症の患者さん
血小板

卵巣がんの患者さん
ナチュラルキラー(NK)細胞

水疱性角膜症の患者さん
角膜内皮代替細胞

脊髄損傷の患者さん
神経前駆細胞

心不全の患者さん
心筋球

2021

2022

2023

研究開発部をFiTから独立させ、研究開発センターを設置

医薬品医療機器等法(薬機法)に基づく再生医療等製品の製造許可(一般区分)を取得

一般財団法人京都大学
iPS細胞研究財団
設立

CiRA Foundation

CiRA Foundation



公益財団法人となり、活動を開始
iPS細胞ストックプロジェクトを継承

財団設立の経緯

iPS細胞の製造や保管・品質評価などの技術を産業界に「橋渡し」する機能はCiRAが担っていましたが、製造したiPS細胞を保管し必要な際にいつでも使える状態にするiPS細胞ストックプロジェクト*などの事業が進んでいくにつれ、他の研究機関や企業の皆様との連携を強化し研究開発に関する情報をより専門的に集約・共有する必要が出てきました。

iPS細胞研究財団は、国家プロジェクトとしての公益性を保持しながら国産のiPS細胞を提供し続ける体制を整備するため、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)から一部の機能を分離する形で、2019年9月6日に一般財団法人として京都大学により設立されました。

その後、2020年4月1日に内閣府から認定を取得して公益財団法人となり、財団で「橋渡し」機能を担うことになりました。

*iPS細胞ストックプロジェクトについては9ページを参照してください。

財団の概要

名称	公益財団法人 京都大学 iPS 細胞研究財団（略称：iPS 財団）
英名	CiRA Foundation（略称：CiRA_F）
設立者	国立大学法人 京都大学
設立日	2019年9月6日 一般財団法人設立 2020年4月1日 公益財団法人（内閣府認定）へ移行
所在地	〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町 53 番地

評議員 （五十音順）

阿曾 沼 慎司	京都大学オープンイノベーション機構 機構長
奥 正之	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 名誉顧問
齋藤 英彦	国立病院機構名古屋医療センター 名誉院長
松本 紘	公益財団法人国際高等研究所 所長

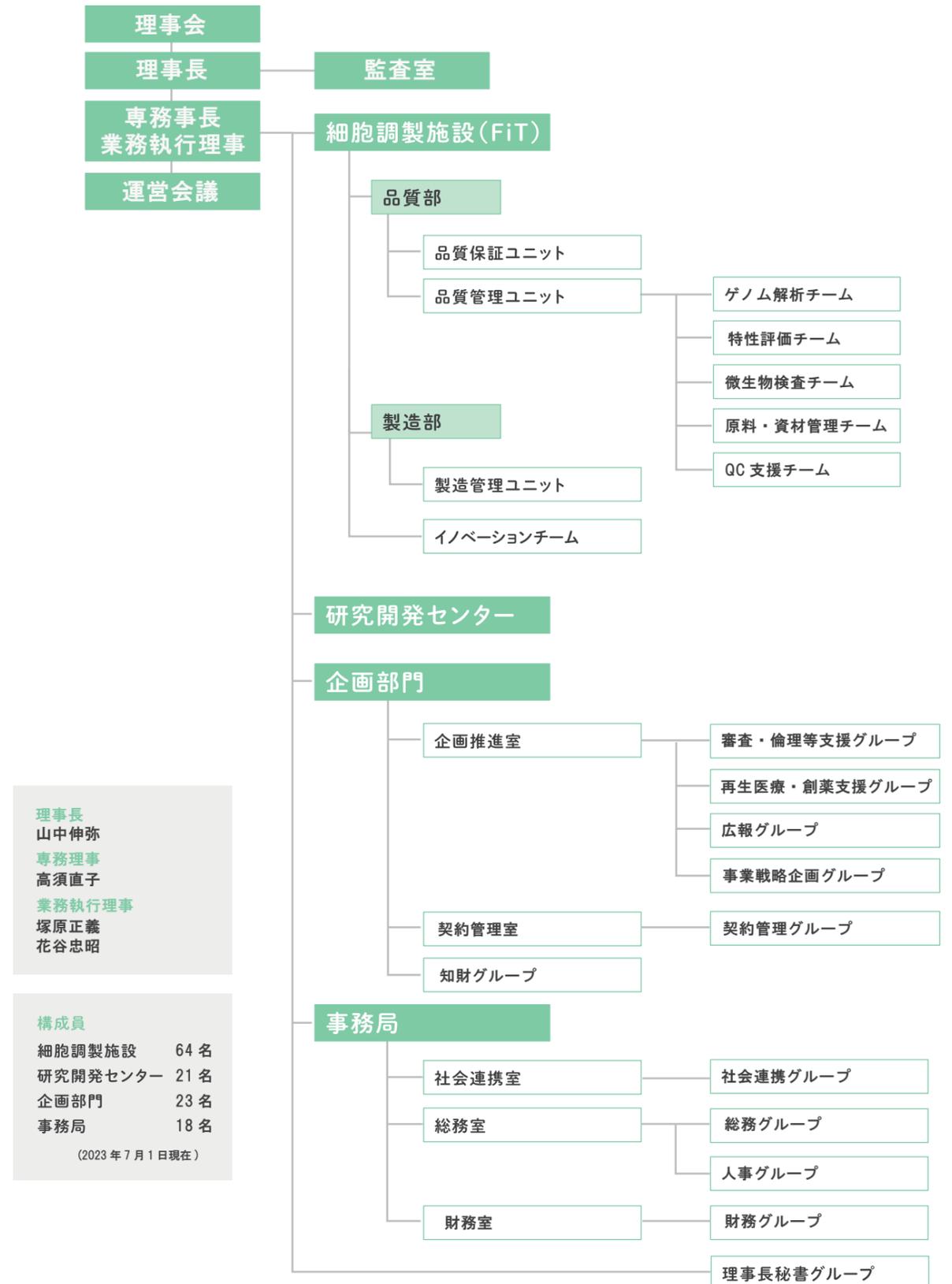
理事

理事長	山中 伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所 名誉所長／教授
専務理事	高須 直子	京都大学 iPS 細胞研究財団
業務執行理事	塚原 正義	京都大学 iPS 細胞研究財団
	花谷 忠昭	京都大学 iPS 細胞研究財団
理事 <small>（五十音順）</small>	高橋 淳	京都大学 iPS 細胞研究所 所長
	西田 幸二	大阪大学大学院医学系研究科・医学部 脳神経 感覚器外科学 眼科学 教授
	日戸 興史	元オムロン株式会社 取締役 執行役員専務 CFO 株式会社ワコールホールディングス 社外取締役 一般社団法人日本 CFO 協会 理事
	畠 賢一郎	株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング 代表取締役 社長執行役員
	松山 晃文	松山 晃文 大阪はびきの医療センター 次世代創薬創生センター長

監事

國谷 史朗	大江橋法律事務所 弁護士
新川 大祐	北斗税理士法人 税理士・公認会計士

組織図



ご寄付のお願い

iPS細胞を用いた再生医療が実用化されれば、今は治すことのできない病気・ケガに対して、新しい治療の選択肢が増えることになります。

当財団は、その実用化に必要な「大学から産業界への技術の橋渡し」を行う組織の1つです。

厳密な工程に沿って製造され、品質が担保されたiPS細胞を備蓄し、国内外の研究機関や企業に公平かつ適正な価格で提供するとともに、次世代iPS細胞の開発や情報・技術の提供を通して、再生医療の普及に貢献します。当財団の活動にご賛同いただけるようでしたら、ご支援をご検討くださいますようお願い申し上げます。

ご寄付の使い道

みなさまから賜りましたご寄付は、下記のような公益目的事業に大切に活用させていただきます。

- iPS細胞ストックや分化細胞の製造・提供等
- 次世代iPS細胞の研究開発等
- 関連技術の共有・普及等

インターネット

当財団の公式ウェブサイト「ご寄付をお考えの方」ページから「毎月のご寄付」、「今回のご寄付」をお申し込みいただけます。

<https://www.cira-foundation.or.jp/j/support-ja/>



振込用紙

下記フリーダイヤルで専用振込用紙などをご請求いただけます。

0120-80-8748

受付：平日9時～17時

自動音声に従ってプッシュボタンの【2】を押してください。
当財団の資料請求窓口につながります。

ご寄付方法

なぜ寄付が必要なのか？

ヒトiPS細胞作製成功に関する論文が2007年に発表されて以降、iPS細胞は世界の研究機関、製薬会社で新しい医療の開発に使われています。

日本国内では、当財団も連携しているiPS細胞研究所(CiRA)等が中心となり、iPS細胞技術の実用化を目指した応用研究が進められています。

いくつかの病気やケガについては、患者さんにご協力いただく臨床研究の段階にあることが、研究を実施している機関によって報告されています。

細胞医薬品の実用化、製造・販売は大学では難しく、研究成果や技術を産業界へ引き継ぐための組織として、当財団が活動を開始いたしました。

iPS細胞という新しい技術を使った再生医療の研究開発は、企業にも多大な時間とコストがかかり、製造・販売にまで到達できないリスクも高い事業です。**企業が参入しやすいよう、障壁を津越でも減らすため、当財団では、iPS細胞や技術等を良心的な価格で提供しています。**

日本で生まれたiPS細胞技術が実用化された時、非常に高額な医療となって、**必要とする人に届かない、という事態を避けるためには、当財団のような活動が必要不可欠です。**

これまでの研究成果を無駄にせず、iPS細胞技術の実用化という長期的な取り組みを継続させるために、公益目的事業による収入や公的研究費に加え、皆さまからのご寄付も募っています。



当財団は、京都大学iPS細胞研究所から開発研究・医療応用に関する部門が分離して設立されました。同研究所へのご寄付については、研究所ホームページ(<http://www.cira.kyoto-u.ac.jp>)をご覧ください。

本部

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町53番地
※京都大学iPS細胞研究所(CiRA)の建物内にあります。



🚆 電車でのアクセス

- 京阪「神宮丸太町駅」下車 5番出口から徒歩約4分

🚗 タクシーでのアクセス

- JR「京都駅」より約20分
 - 阪急「京都河原町駅」より約10分
- ※通常車両は春日上通沿いから敷地内へ出入り可能です。
iPS細胞研究所の建物の前で下車いただけますが、敷地内にある駐車スペース以外は、駐車禁止です。
※川端通、鞆小路通からは車両で敷地内へ出入りできませんのでご注意ください。

京都リサーチパーク

KISTIC : 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134
9号館 : 〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91



🚆 電車でのアクセス

- JR「丹波口駅」下車 西へ徒歩約5分

🚗 タクシーでのアクセス

- JR「京都駅」より約10分
- 阪急「西院駅」より約10分
- 阪急「大宮駅」より約10分

www.cira-foundation.or.jp



公益財団法人
京都大学 iPS細胞研究財団

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町53番地



※「京都大学iPS細胞研究財団」、「CiRA Foundation」、「my iPS」、「マイiPS」、「iPSストック」、「iPS stock」、及び各ロゴは、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団の商標登録です。